
～ネギま！に來た天劍の物語～

天劍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

～ネギま！に來た天劍の物語～

【Nコード】

N6420U

【作者名】

天劍

【あらすじ】

転生した主人公がネギま！の世界に行き、生き残るために自分が好きだった小説の能力を貰いフル活用！「俺生き残れんのかな？」

第零話

名前…レイフォン・ヴォルフシュテイン・アルセイフ

身長…174?

体重…67?

年齢…16歳

性別…男

種族…武芸者

容姿…鋼殻のレギオスのレイフォン

服装…グレンダンの頃のレイフォンの服を着ており、高い魔法抵抗力を有している。

2

●能力と武器

▽肉体の不老と限界突破

▽状態異常無効化能力

▽女王と同等の剋量

▽女王の剋量にも耐えられる刀型の天剣

▽サイハーデン刀争術と剋技に関する知識と武器を使う才能

備考

今作の主人公。

幼女（神）のミスによってテンプレを経験し転生させられた。

転生先のネギま！では自分の能力をフルに使い、生き残るため戦う。

第一話（前書き）

修正しました。

第一話

「これなんて状況？」

目覚めてみれば真っ白な場所と土下座している少女がいた。

「申し訳ありませんでしたぁー!!」

「しかも流暢に日本語を話しただと!？」

これには驚いた。

少女如きが流暢に、しかも日本語を話すとは誰が思うだろうか？

「とりあえず、顔を上げて立ち上がれ少女。これじゃあ俺がお前に何かしたと勘違いされるだろうが」

「は、はい、すみません…」

そう言って顔を上げる少女。

……うん、見紛うことなき本物の少女だ。

「それで少女、ここはどこだ？」

「ここはあの世とこの世の狭間です」

「……………は？」

あの世とこの世のはざま…いやいや——

「いやいやいやいや、何そのテンプレな発言!」

「事実ですよ?だって私が間違って殺してしまっ…あ……」

「ほほう…」

今コイツ何テ言ッタ?

「聞き間違イカ? 幼女? オ前ノ言ッタコトガホントウナラスコシO
☆HANASHI ショウジャナイカ?」

「ヒィ…」

「サア、ジンモ……ゴウモ……ナンデモイイカラハジメルトシヨウ
……」

「い、イヤアアアアアアアアアアアアアアア!……!」

く折檻&幼女の説明く

「つまり? お前は神様と呼ばれる存在で、自分がミスをして殺して
しまったから、その責任で俺を転生させてくれると?」

「はい、そうです……グスッ……」

「なるほどな」

それって、まんまテンプレモノじゃね？

二次小説なんかで、よく見るけど自分が体験するとは思わなかったな。

「それで転生先は、いったいどこだ？」

「えーつとですね。転生先は、魔法先生ネギま！ の平行世界ですね」

ありがちな。

「二次小説でよくある能力なんかも貰えますよ。で？ どうするんですか？ 転生しますか？」

「また生きられるんだ。だったら転生してやるよ」

「わかりました。では能力を」

能力ねえ…

……そうだ、あれにしよう！

「じゃあ、一つ目は肉体の限界を無くして全盛期の状態で不老にすること。

二つ目は状態異常無効化能力を。

三つ目は鋼殻のレギオスの武芸者の能力で、剋量は女王と同じくらいにしてオーロラ粒子が無くても剋が使えるように。

四つ目は刀の天剣をくれ。女王の全力の剋にも耐えられるのを復元して使えるように。

五つ目はサイハーデン刀争術と剋技に関する知識と武器を使う才能

を」

「普通なら王の財宝とか無限の剣製とか、そっち系だと思ったんですけど…」

「魔法のある世界に転生するのに同じような力より、まったく別の力を持った方が面白いだろ？」

Fate系は度が過ぎてるからな。

その分レギオスの方は力加減とか簡単そうだし…

「後、個人的にあの作品が好きだから」

原作もいいけどアニメも面白かったし。

「そうですか…わかりました。この五つの能力でいいですか？」

」

幼女が確認するかのように言ってきた。

「おう！」

「では、能力の設定を完了したので転生させます。

では、よい戦場を」

幼女がそう言った瞬間、視界が暗転し俺は意識を失った。
だが最後に言わせてくれ。

なぜにデルボネ？

第二話（前書き）

続いて投稿します。

第二話

「あの幼女、今度会ったらもう一度O☆H A☆N A☆S H Iだ」

意識が回復したと思ったら空から落下中でいきなりの死亡フラグ。初めてだったが、どうにかして剄を使い森の中に着地して九死に一生を得ることができた。

人間やろうと思えば何だってできるんだ。

「まったく、ひどい目に遭った…」

そう言いつつ自分の状態を確かめる。

「あれ？」

そして気が付いた。服が変わっていたのだ。なぜ？と考えたが、すぐにわかった。

あの幼女（神）が何かしたに決まっている。

まあ服装ぐらいでどうこう言う必要はないが…

「とりあえず」

腰…というか左腿に付いている剣帯から鍊金鋼ダイトを抜き復元する。

「レストレーション」

基礎状態の鍊金鋼ダイトが発光し、その形を変える。

「おお…」

天剣。

白金の刀の柄を握り、その感触を確かめ天剣を基礎状態に戻す。

と、そこへ上から紙が降ってきた。

「なんだ？」

宙に舞う紙に手を伸ばして見る。

「手紙か？」

こんな時に来るとしたら神がやったとしか思えない。

そう思い封を開け書いてある文字を読む。

『手紙を読んでいるという事は無事転生できたようですね。前置き
はいいとして本題に入りましょう。

まず、あなたが転生した先は、ちゃんと魔法先生ネギま！の世界で
す。

次に能力ですが、こちらも問題なく使えます。

それと容姿と服装も変えましたので後程確認して下さい。

最後に今の時代は原作100年前で、場所は魔法世界のどこかです。
また今いる場所から半径10？は50年経たないと出れません。

それでは、よい戦場を』

だから、何でデルボネなんだ？

つか、服だけじゃなくて容姿も変えたのかよ。

というか50年経たないと出れないって…

それにこの服：グレンダンの頃のレイフオンの服だから容姿もたぶんレイフオンなんだろうなあ。

しかし100年前か…苦労しそうだ。

まあ、とりあえず…

「生きるために、まず強くなろう。そのためにまず修行だな」

さて、どこまで行けるもんか？

（10年後）

時間が飛んだような気がするが気にしちゃいけない。

転生してから10年程経ち、今日も修業に明け暮れている。

ちなみに名前はレイフオン・ヴォルフシュテイン・アルセイフと名乗ることにしている。

なぜかって？この名前以外まともなのが思いつかなかったからだよ。

修業の方は剋息と肉体運用、それと刀と剋を使って鍛えていった。

この身体すごいね！

鍛えればその分の成果がすぐに出たよ。

それに武器を使う才能も凄かった！

まあ驚くのはこれぐらいにして：

で、身体ができてきたから今日からサイハーデンの技に入ることにした。

左腰に刀を引き寄せ、刀身を左手で握り、抜き打ちの構えをとり、剄を走らせる。

サイハーデン刀争術、焰斬り。

刀身を走る剄と左手を覆う剄が衝突し、刀身に纏われた剄を赤く染め上げ、目の前の大樹を左から右へ斜め上に切り上げていき、衝剄によって吹き飛ばす。

「まあ初めてにしては上々だな」

切り裂かれた大樹を見下ろし、そう呟いた。

「一応形にはなっているし。技自体に問題もないけど剄の練りがまだ少し甘いかな？」

いろいろ思案するが、今はやめることにした。

なぜなら：

「ここから出れるのはまだ先だし。ゆっくりやるとしよう」

そうして俺は次の技のために剋を練り始めたのだった。

第三話（前書き）

少し修正しました。

第三話

レイフオンSIDE

「グオオオオオオオオ！！！」

「ちいっ…！」

どうも、現在進行形で絶体絶命のレイフオンです。
先程の咆哮で分かる人もいるかもしれないけど一応言っておく。

黒龍と絶賛戦闘中なんだよ！

なぜこうなったのか？

いつもどおり修業を始める。

←
空からいきなり登場。

←
黒龍殺る気満々。

←
戦闘開始。

←
今ここ。

てな感じだ。

「ギャオオオオオオオ！！！」

絶体絶命と言ったが実はそんなでもない。

技に入って二十年ほど入るが、いかんせん試す相手がいないため、たまに自分から龍や魔獣のもとへ行き、技を試している。

まあつまり行かないで遇うことは稀なんだ。

すでに何度も攻撃を受けた手負いの黒龍が咆哮をあげ、こっちに突進する。

活剄衝剄混合変化、金剛剄。

活剄で肉体を強化し刀の腹で衝剄による反射をおこなう。

金剛剄によって弾き返された黒龍が怯んでいる隙に、次の技を放つ準備に入る。

左腰に刀を引き寄せ、左手で握り、剄を込める。

サイハーデン刀争術、焰斬り。

剄同士の衝突が火花を生んで幻想の炎となる。

炎を纏った刀が黒龍の顔を斜め上に切り上げ、衝剄で動きを束縛する。

サイハーデン刀争術、焰重ね。

切っ先を翻し、今度は斜め下に振り下ろす。

俺の放った斬撃は黒龍の顔の肉を切り裂き、骨を砕き、脳にまで達して死に迫りやった。

.....

.....

.....

.....

...

「やりすぎた…orz」

あの後、黒龍の遺体をどうするか悩み、結局自分の必要な分の食料を取り、残りは衝剄で跡形もなく消し去った。
で、何がやりすぎたかって言うと…

辺りが一面、嵐が過ぎた後みたいになっていた。

うん、俺も驚いた。まさか、こんなに被害が出るとは思わなかった。
まあそれなりに龍種としては大きい方だったし強かったから本気だ

してたし…

まあ過ぎたことだから別にいつか。

…パチッ、パチッ

火を起こし、今日の飯である黒龍の肉を焼いて食べていく。

「（モグモグ）塩がほしいな…」

一人寂しく呟く。

人肌が恋しいなあ。寂し過ぎて死にそうだ。

……死ぬ気はさすがにないけど。

と、思いつつひたすら焼いた肉を口に運んでいく。

（数分後）

「ごちそうさん、と」

明らかに入りきらないであろう肉を食いきり、今日の寝床を作る。

最初に言っておくが俺は特定の拠点を作ってはいない。

なぜなら、この周囲の森を大規模な結界が囲み隔離されているからだ。

隔離といっても俺だけが出られないもので他の生き物は出られるんだが……

まあ言うなれば俺の修業用の結界だとも思っておけばいい。

俺はいったい誰に言っているんだ？

疲れてるのかなあ………？

「早く寝よう」

それがいい。さっさと寝よう。

そう思い俺は寢床に横になって到息をしながら眠った。

何が起るか分からないため感覚だけは研ぎ澄まし、意識だけを手放した。

夢を見た。

初めて命を手にした時のだとすぐに思い出した。

あの時は無我夢中だった事を覚えている。

ただ死にたくないという一心で殺した。

殺した後は吐いてしまい三日程、何も食べなかったのも覚えている。

この世界で生きていくためには、ときに自分の手を汚さなければならぬことも覚悟していた。

それを改めて認識した時でもあった。

「はっ…！」

目が覚め、改めて自分が夢を見ていたんだと思い知った。
すでに辺りは明るくなり始めていた。

「嫌な夢を見ちまったぜ…」

目が覚めた最初の言葉が、これだった。

S I D E E N D

第四話（前書き）

遅くなりました。では、どうぞ

第四話

＼レイフォンSIDE＼

50年という長い年月が経った。

感覚を研ぎ澄ませば、今まで森を覆っていた仕切りのようなものが消えているのが分かる。

「やっと出られる」

50年も出られなかったから、いい加減うんざりしていた。これが100年だったら発狂していたかもしれないし……

「兎に角、今日はさっさと寝て明日旅立とう」

ああ、早く自分以外の人に会いたいもんだ。

朝、まだ太陽が完全に顔を出していないうちに森を抜け出す。もう二度と帰って来ないであろう場所を後にし人里を目指すことにした。

（1ヶ月後）

自由交易都市グラニクス

ようやくたどり着いた。

自由交易都市グラニクス。

自由交易という名の通り、地方からやってきた人たちがさまざまな品物を売りに来て賑わっている。

かくいう俺も旅をして、金が無くなったため、ここに立ち寄って金を稼ぐことにした。

ちなみに金は盗賊に襲われた時にボコって逆に奪い取った。

まあ結局その金も、途中の村や街で宿やら食料やらいろいろな事に使ったことで消えたため今こうしているんだが……

とにかく拳闘士になって金を稼ぐために入団することにした。

グラニクスのどこかの拳闘士団

「拳闘士になりたいだあ！！？ お前みたいな奴じゃ怪我すんのがオチだぜ！？」

「金が必要なんだ。それに強いかどうかはそっちで決めればいいだけの話だろ？」

「はっ！ いっちよ前に言うじゃねえか？ いいぜ！ だったら入団テスト受けてみな！！」

その後、闘技場に移動し、ここの訓練士と戦って勝てば入団を認めると言われた。

「おい、本当にやるのか？ 今から引き返せば怪我しないで済むぜ？」

「ご心配どうも。でも結構です。やるというたらやる主義なんで」

「ケツ、そーかよ…」

しばらくしたら訓練士の人が出て来た。

「お前か？ 入団したいって奴は？」

「ああ」

「お前みたいなガキが入団したいなんて、俺たち拳闘士も嘗められたものだな！ お前に拳闘士の世界の厳しさを教えてやる！！」

「御託はいいから早く始めろ」

こうしている間も時間を浪費しているんだから早くしろっつーの。

「フンッ、口だけは達者だな。まあいい、どこからでも掛かってk
…」

訓練士の方がそう言った瞬間、俺は右腕を振り抜き衝剄を放つ。
放たれた衝剄は彼に当たって、その一撃で失神させた。

「これでいいか？」

「はっ！？お、おう、それなりにやるようじゃねえか！？座長には
俺から言っておいてやるよ！と、とりあえず入団を認めるぜ！」

こうして俺は無事に入団することができた。

「いいか？入団した以上死のうが恨みっこなしだ！わかってるな？」
「はい」

今日は俺が拳闘士になって初めての試合。
目の前で俺に話しているのはヴァンさん。俺が入団する際に座長に
取り合ってくれた人である。

「よし、わかってんなら行け！今日はお前のデビュー戦だ！存分に

暴れてこい！つか、やられてk…」

「行ってきます」

なんか言われたが気にしないでおう。

通路を抜け、闘技場に移動する。

ワアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア！！！！

「うわっ、すごい数の観客…」

観客席を見ればほぼ満席…逆に空いている席を探す方が大変そうだ。

「さあ、今年もやって参りました！グラフィクス拳闘大会！！これより試合上のルールを説明いたします。

ルールは簡単、相手が戦闘不能、もしくはギブアップした場合試合終了になります。また、武器・魔法の使用は可です」

など、司会者から試合に関する説明がされた。

「レストレーション」

すでに手に持っていた天剣を白金の刀へと復元させ構える。

「では…開始！」
インキビテ

外力系衝剄の変化、針剄。

凝縮した二つの衝剄を試合開始と同時に刀を振り抜き放つ。

固体と化した劉は、二人の相手選手に命中し、失神させた。

後から聞こえたのは観客からの歓声と試合終了の合図だけだった。

S I D E E N D

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6420u/>

～ネギま！に來た天劍の物語～

2011年8月11日02時10分発行